

飛田雄一
ユングフラウ、マッターホルンがほほえむ！？
～スイストレッキング紀行～



スネガからマッターホルンをのぞむ

2018年夏

●①08/29(水)<いよいよ、スイスだ>



フィンエア／ハイジの世界／チーズフォンジュ

メンバーは6名。登山仲間5名（A B C D & 飛田）とAさんの奥様だ。登山仲間は、いっしょに結構登っている。南北アルプス（日本です）、飯豊山、朝日連峰、八海山、鳥海山、トムラウシ、旭岳、知床連山などだ。年齢は私がいちおう最年長だがあまり違わない。「体力、時間、お金」を考えたら、今年しかないだろうと実行することにした。

8:20、三宮からリムジンバスで関空へ。10:15着。順調だ。

10:40、荷物検査、入管を通過する。ズボンをはき替えてベルトを忘れた。まあなんとかなるか・・・。

10:55、離陸、快晴。フィンランド航空（フィンエア、AY）78便、ヘルシンキ行きだ。関空からは、関西組のBさんといっしょだ。あとは、成田から2名とヘルシンキで合流。あと2名は、ドイツ・フランクフルトに入り、目的地のチューリッヒで合流だ。



飛行機のテレビ画面、北極ルートだ、犬の映画、ペレの映画を観ました

フィンエアの飛行機は快適だ。映画を2本観た。①犬の映画、奥様が好きで買った犬、大変ドタバタするが最後はご主人との心温まるお話。②ペレは、「靴磨きをしていた時代から、ブラジル代表委チームを率いるまで、一躍スターになったペレの華麗な経歴を描いたドラマ」。おもしろかった。飛行機内の音が気になるが、持参の耳穴密封式のイヤホンで聞くと具合よかったです。また、愛用のKEN WOODのウォークマンで、中島みゆき、桂三枝（現・文枝）などを聞く。

ヘルシンキまで9時間45分、当地とは時差が7時間なので、現地時間14:38到着。行きは、1日が長くなるだけなので頑張って起きていればいいので楽だ。ここで無事成田発の2名と合流、フィンエア/AY1513便でチューリッヒに飛んだ。フィンランド・日本の時差が6時間、スイス・日本の時差が7時間。日本から西にいくと、中国1時間・・・・、と時差ができるはずなのに、なぜか、日本に近いスイスが時差7時間、少し遠いフィンランドが6時間。なんぼ頭をひねっても分からないのでやめた。スイス時間、18:15、チューリッヒ空港に到着した。

空港からチューリッヒ市内まで電車で15分。間違ってひとつ手前の駅で降りてしまったが再乗車して、問題なし。私たちはスイスレールパスを買っている。何回でも乗り降り自由だ。バスは、一等車用が78,900円、二等車用が49,800円、我々は二等車用にした。

スイスの汽車は韓国と同じで改札がない。でも、無賃乗車が見つかると大変らしい。

チューリッヒアドラーホテルで、6名合流。駅から徒歩10分程度の便利なところだ。チーズフォンジュを食べ、ワインで乾杯した。

長い一日を終え、熟睡した。

●②08/30(木)<アイガー北壁がばっちり>

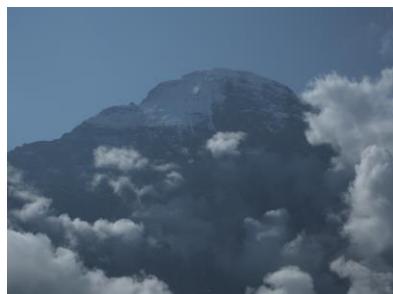
きょうは、山岳地帯への移動日だ。

7:00、ホテルで朝食。チーズとハムの種類が多い。うれしい。

9:20、チューリッヒ中央駅からグリンデルワルトに向かう。Aさんがネット接続のタブレットを持参、かつ、スイス鉄道検索が上手で、旅行中ほんとに助けられた。ベルンともう一ヵ所で乗り換えて、湖の街・インターラーケンへ。そこから登山列車にのってグリンデルワルトについた。12:30頃。ほんとに途中の景色もすばらしい。「ハイジ」の世界そのものだ。

駅前から少し歩くと、テレビでよく見たアイガー北壁がよく見える。こんなに街から近いとはびっくりだ。

宿泊のベルナーホフホテルは、駅から3分という感じだ。隣が日本語の観光案内所で、便利だ。だいぶ情報を仕入れた。



日本語案内所／アイガー北壁／ホテル入口

ランチは、私はスパゲティー、値段は高いが1人前の分量が多い。

午後、山に登る。天気はいまいちだが、まずは小手調べでフィルストに登る。登山、トレッキングコース担当は私だ。事前に『地球の歩き方』を読んで仲間にレポートを送ったら、そのようになってしまった。

山頂までロープウェイで登ったが、何も見えない。フィルストからグリンデルワルトの街まで、歩くと3時間程度。3つの部分に分かれている。第1区間は天候不良でバスしてゴンドラで降りた、第2区間、まあまあ視界がきくようになったので歩いた。約1時間。下りばかりでルンルンだ。下り専用のカート（4輪）でわいわいと降りてくる人もいる。



カート／アイガー、COOPです／

途中で足を痛めたAさんが、この第3区間はロープウェイに乗るという。残りのメンバーは歩くことになろうとしたとき、下り専用の自転車をレンタルしているのが目についた。Aさんはこれに乗るこという。一人だけそれに乗って降りるのは危険だということになり、5人全員が乗ることになった。ハンドル、ブレーキはあるが、ペダルはない。子どもが遊ぶスケーターのようなものだ。ヘルメットも貸してくれる。「安全運転をする」という誓約書も書いた。最初、ふらふらしたが慣れてくるとさ

いこう、楽しい。あっという間に街まで降りてきた。

実はこのサイクリング、私が予習のために図書館にいって『B-PAL』を読んでいて、見つけたのだ。事前に仲間に、今回は無理だろうけど乗りたい、と言っていた自転車だ。

ホテルにもどり、再び、アイガー北壁を眺めたがもう見えなかった。朝のその時だけ顔を見てくれたのだった。

明日にそなえて早めに就寝、おやすみなさい。



寒い／カラスも寒い／ユングフラウヨッホ

●③08/31(金)<ユングフラウがほほえむ?>

きょうは、終日、グリンデルワルト。憧れのユングフラウだ。

岩をぶち抜いたユングフラウ鉄道でユングフラウヨッホまで登る。所要時間35分。グリンデルワルト***M、登山鉄道でクライネシャディク2061M。そこからユングフラウ鉄道でユングフライヨッホ3454M。そしてユングフラウは4158M。

が、展望台では、何も見えなかった。残念至極。めっちゃ、寒い・・・。

Bさんの友人でスイス登山のベテランは、「ユングフラウヨッホの展望台は観光客ばかりの展望台でもうひとつ、下のメンリッヒエンあたりを歩いてユングフラウを眺めるのがいい」との意見だった。が、岩をぶちぬいたユングフラウ鉄道には乗らなくてはならない。よくまあ、****年にこんな鉄道をつくったものだ。スケールは小さくなるが日本でいえば、上高地から穂高岳山荘まで鉄道を作ったようなものだ。分かっていただけるだろうか？

それなりに満喫して復路も鉄道に乗り街に帰ってきた。



花の写真

●④09/01(土)<氷河融水の滝みて、いよいよテルマットへ>

この日も天気はもうひとつ。日本語案内所の情報では、雨の日のこのあたりは、①滝、②グレッシャー渓谷、③***（3番目は忘れた）だという。①に行くことにした。登山列車を乗り継ぎ最後はバスにのった。『歩き方』にも「氷河融水の滝（テチュンメルバッハフォール）」と書かれている。洞窟の中の滝で、何しろ水量が多い。ほとんどが洞窟の中なのでいい写真がとれない。



滝／湖散策



この船に乗りました／ラフティング（湖に流れ込む川、氷河の融水は白く濁っている）

昼、インターラーケンの大きなスーパーのレストランでランチをした。
その後、ブリエンツ湖を散策。船にも乗りました。

そして、次は、マッターホルンが待つツェルマットだ。乗り換え2回、約3時間、夕方到着した。
ツェルマットについて私はひとり散歩、マッターホルン博物館に行った。小さいけれどいい雰囲気の博物館だ。
ホテルは、ラ・クロン。夕食は、*****。忘れてしまった。ワインとビールは飲んだ。

⑤09/02(日) <マッターホルンがほほえむ！>



朝起きる。いい天気だ。ホテルのベランダからマッターホルンが見える。ホテルの前の橋は、街か
らいいちばんマッターホルンが見える橋で、多くの観光客が朝から来ている。我々はホテルのベランダ

からだ。うつぶん・・・。

丸2日間、ツェルマット滞在なので、心がウキウキする。朝食は、おいしいパン、おいしいチーズ、おいししジュース、おいしい果物だ。

ツェルマット1605Mから、ゴルナーグラート3090Mへ登山電車で登る。足を痛めているAさん以外の4名が、歩き始める。マッターホルンがずっと見えている。次の駅で、Aさん、奥さんと合流。6人あたりを散歩する。

今度は、奥さん以外の5名で下山する。ほんとに天気がよくるんるん気分だ。

次の駅（*****)でステキなレストランで昼食。私は、スパゲティーとビール、マッターホルンを見ながらの最高のビールだ。

私は、更にハイキングを続けるBさんCさんDさんを見送って、余韻に浸りながら更にくつろぎ、Aさん、Aさんの奥さんと列車で下山した。

夕食は、中華料理。おいしかった。

⑥09/03(月)<富士山より高い展望台へ、ロープウェイで>

きょうも天気は、いまいち。ホテルからマッターホルンは見えない。でもグレイシャーパラダイス3883Mまで登山列車とロープウェイで登る。



どこにマッターホルンがあるのか分かりません／トイレは有料、2イスフラン、2ユーロ／氷河公園のKING

展望台では、ま近にみえるはずのモンブランが見えない。残念。が、氷河をくり抜いた公園にはおもしろいものがあった。

レストランで、大学一年生のE君とあった。大学入学のお祝いに親から1か月のヨーロッパ旅行をプレゼントされ、前日からスイスに来たとのこと。ここの氷河でスキーをすること。

ロープウェイでスバヴァルツゼー2583Mまでロープウェイで下り、トレッキングを開始した。フーリ1867Mまでおり、更に歩くというDさんをおいて、ロープウェイ（ゴンドラ）にのった。人の乗っているゴンドラを2-3やり過ごすと、なんと、次のゴンドラにE君がひとりで乗っているではないか。宝くじで1000万円が当たるほどの確率か？

ツェルマットでの夕食は、おいしかった前日の中華料理を再訪。



氷河だ！



快適に下山／橋からマッターホルンと見上げる人をホテルラウンジから／マッターホルン

⑦09/04(火)<スネガで心ゆくまでハイキング、そしてチューリッヒへ>

この日は快晴。すごい！ マッターホルンがホテルから丸見えだ。ツェルマットからスネガ2288Mまで地下ケーブルカーで登る。なんと標高差800Mを3分半で登る。驚きのスピードだ。スネガから更にロートホルン3104Mまでロープウェイがあるが、それは冬季スキー場のための準備で休んでいた。



スネガの池

スネガから4名は、更に登って逆さマッターホルンで有名なライゼー湖からツェルマットまで降りるという。私は、ひとり写真をとりながら散歩した。のんびりとした至福の時だった。また地下ロープウェイで降りた。

そして午後からチューリッヒに移動だ。ここでもAさんのタブレットと検索能力が大活躍した。



広間でのオーケストラの演奏会



チューリッヒの公園でのチェス／いい天気でした



チューリッヒでは、ひとりで散歩とビール。

夕方、ホテルのすぐ前の広場でオーケストラ、すてきだった。

そして、夕食は韓国料理店に。おいしかった。

そして、夜、ニュースで台風による関空閉鎖のことを知る。すぐに再開するだとうと思っていたら、もしまだ関空がだめなら名古屋セントリア空港か福岡空港に降りるだろうと思っていた。が、スマホで調べるとフィンエアの関空行きは、なんと「欠航」。

あせった、日本では真夜中だが旅行会社（一人社長の会社）にメールをし、電話をした。夜中に起こして申し訳なかった。メールはまだ見てないとのことで口頭で、セントリアか福岡に降りたいとの希望を伝えた。福岡とセントリアには週4便でていると聞いていた。

そして、同じ日の飛行機のセントレア行きがとれたとのこと。うれしい。多くの関空行きの人がセントリアに切り替えようとしたから、夜中に社長さんが頑張ってくれたからOKとなったのだろう。スウェーデンで友人に会ってから3日後にフィンエアで同じくヘルシンキから関空に帰るはずのBさんは、セントリア行きの飛行機がなかなかとれず、ヘルシンキにあと2泊することになったとのことだった。うれしい？！

⑧09/05(水)<帰路も飛行機で映画三昧>

チューリッヒのホテルから私は早い目に空港に行った。まだ心配だったので3時間前に行った。カウンターでは、なにごともなかったかのようにチューリッヒ—ヘルシンキ、ヘルシンキ—セントリアの飛行機チケットをくれた。

チューリッヒ空港からヘルシンキ空港までは、E U「国内線扱い」の飛行機だった。チューリッヒでは荷物チェックはあったが入管がない。ヘルシンキからの国際線ではどうするのかと思っていたら、海外線トランジット用の通路があり、そこでは荷物検査なしの、入管チェックだけがあった。

帰路も飛行機では映画三昧。阿部寛主演の映画を2本みた。「恋妻家宮本」「祈りの幕が降りるとき」。中身は忘れたが面白かった。

イスと日本の時差7時間は心配だった。今回成功したのが「時計2つ」作戦。ひとつを日本時間のままにしていて、日本に電話をかけるときなどのも便利だった。そして、帰る日には、日本時間の時計だけを見るようにした。もう夜の11時、12時まわったなどという感じである。よく寝ることはできなかつたが、頭の中はずつと日本時間だったので時差ボケが少なかつたと思う。

⑨09/06(木)<関空がダメで、なんとかセントリアに戻りました>

＊＊時、セントリアに無事到着した。荷物ピックアップの場所で係員が何か紙を配っている。「欠航証明書」だ。関空行きをセントリア行きに変更した人に配布しているとのこと。そして、そこには、セントリアからJR新大阪までの領収書を様式にしたがって送れば補填されるという。しめた・・。

メンバーでパイロットのCさんは、「台風が原因なので名古屋からの交通費はでないだろう」という予想だったが、よい方にはずれた。

更に、三宮関空のリムジンバスの復路代金ももどるのでとバス会社に電話した。厚かましいか?

飛行機の「欠航証明書」を見せると返却されますか、と聞いた。バス会社は、証明書は不要です、三宮リムジンバス乗り場に行けば証明書なしでお支払いすること。そのとおりとなった。そりや、そんな人はたくさんいるはずだ・・・。

豪華イス旅行の話が、最後がせこい話になってしまった。申し訳ない。いずれにしても、念願かなつてのすてきは旅だった。こんどは、マッターホルンを見ながら氷河スキーをしたいなどと思っているが、まあ、無理な感じだ。

今回の旅、仲間と旅行会社の社長さんに感謝している。ありがとうございました。

●●あとがき



チューリッヒで乾杯

私はずっと登山が趣味だった訳ではない。大学生の終わりのころ、むくげの会の仲間と確か国鉄労働組合のストライキ（当時は3日間もしていた）に連帯して開催したマージャンの会が終わって朝方、六甲に帰ってきた。そのときの六甲山（正確には長峰山）の新緑の緑のグラディエーションに感動したのがきっかけだ。

中学高校の6年間、器械体操していたので体力には自信があった。それから、毎週のように六甲山に登った。昭文社の六甲登山地図の登山道は、ほとんど歩いたのではないかと思う。毎週のように谷筋、沢筋を順番に上り下りした。その後、サイクリングにはまり、登山より自転車となったがそれでも時々歩いている。

自宅が鶴甲団地、六甲ケーブル下駅から3、4分のところだ。すぐに登れる好条件だ。最近は、遠ざかっているが、私の少しハードなトレーニングコースがふたつある。①油こぶし、ケーブル山頂駅、長峰山、そして、最後は変な道を通って鶴甲団地、②同じく油こぶし、ケーブル山頂駅から東へまわり旧六甲オリエンルホテルから天狗塚東尾根、渦が森団地、山麓の道、六甲ケーブル下駅だ。お勧めである。鶴甲団地の人にはお勧めである。（なんにんいるんだ！？）

今回のスイストレッкиング、せっかく実現したので紀行文を書いてみた。書きながらついこの間のことなのにどの山にいつ登ったのか、ごちゃごちゃになっている。いま書いておかないと記憶の彼方に飛んでしまいそうである。ということで書きました。おつきあいくださいありがとうございます。

2018年9月24日 飛田雄一

〒657-0064 神戸市灘区山田町3-1-1
神戸学生青年センター内
TEL 078-851-2760 FAX 078-821-5878
e-mail hida@ksyc.jp

